

浅間山の火山活動解説資料（平成 21 年 6 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

浅間山では、火山性地震のやや多い状態が継続しています。山頂火口からの噴煙量はやや多い状態が続き、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は3月以降減少していますが、引き続き多い状態で推移するなど、依然として熱活動の高まった状態が続いていると推定されます。

浅間山では、今後も山頂火口から概ね 2 km の範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がありますので、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では、降灰および風の影響を受ける小さな噴石に注意が必要です。

平成 21 年 4 月 7 日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 2（火口周辺規制）に引下げました。その後、予報警報事項に変更はありません。

活動概況

・噴煙の状況（図 2、図 3 - 、表 1）

山頂火口からの噴煙量は 4 月以降大きな変化はなく、噴煙高度は火口縁上 100～300m で推移しました。

・地震や微動の発生状況（図 3 - 、図 4 、表 1）

火山性地震はやや多い状態が継続していますが、2 月 2 日の噴火前にみられた周期の短い火山性地震の増加は認められません。

発生した地震の多くは B L 型地震で、これまで同様、山頂火口直下のごく浅い所で発生したと推定されます。また、A 型地震の震源分布にも特段の変化はみられません。

火山性微動は 9 回発生しましたが、いずれも振幅が小さく、継続時間の短いものでした。

・火山ガスの状況（図 3 - 、表 1）

2 日及び 12 日に行った現地調査では、山頂火口からの二酸化硫黄放出量は、一日あたり 400～1,100 トンと、2008 年 7 月以前の状態と比べ引き続き多い状態が続いています。

・山頂火口内の熱の状況（図 3 - 、表 1）

4 月 3 日以降、高感度カメラ¹⁾による火映は観測されていません。

・地殻変動の状況（図 3 - ）

山体周辺の GPS 連続観測では、昨年 7 月初め頃から深部へのマグマの注入を示すわずかな伸びの傾向が引き続きみられています。

傾斜観測³⁾には特段の変化はみられていません。

- 1) 長野県建設部佐久建設事務所の黒斑山設置カメラ、国土交通省利根川水系砂防事務所の山麓設置カメラ及び気象庁の追分カメラによる。
- 2) レーザなどを用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器。山体の膨張や収縮による距離の変化を観測します。
- 3) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等による変化を観測します。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 21 年 7 月分）は平成 21 年 8 月 7 日に発表する予定です。

この記号の資料は気象庁のほか、国土交通省利根川水系砂防事務所、東京大学、独立行政法人産業技術総合研究所及び長野県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

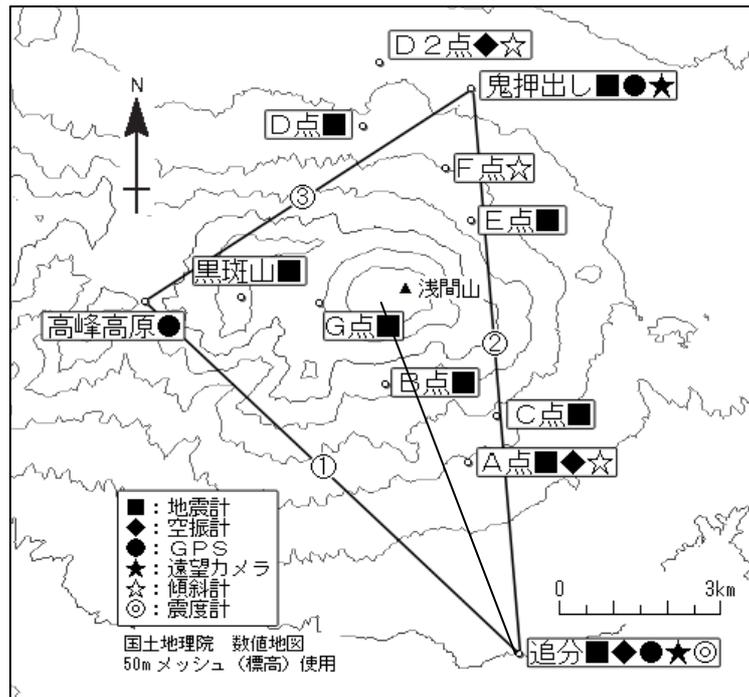


図1 浅間山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）
GPS 基線 は図3の に、光波測距測線 は図3の にそれぞれ対応しています。



図2 浅間山 山頂部の噴煙の状況（6月26日、追分カメラによる）

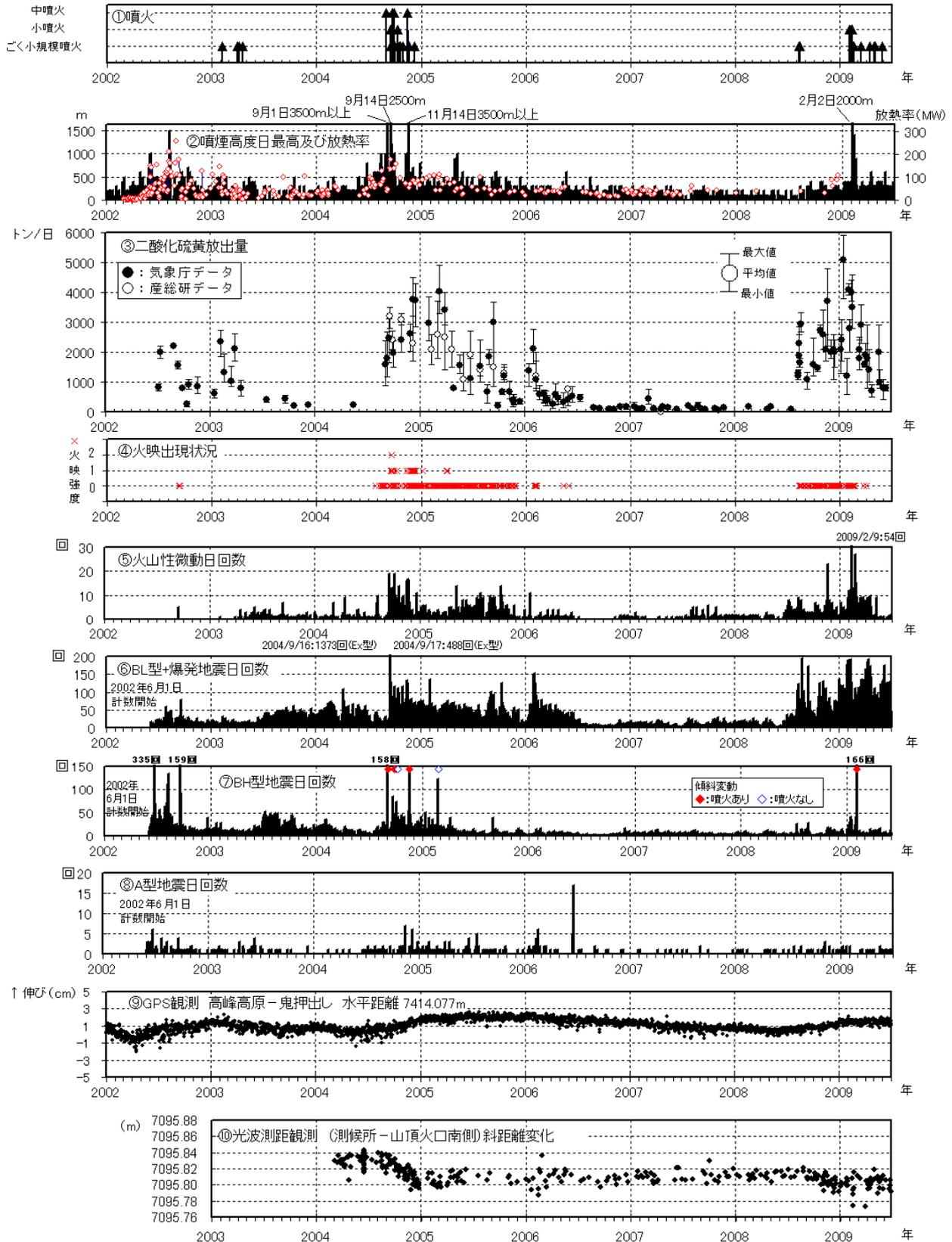


図3 浅間山 最近の火山活動の推移(2002年1月1日~2009年6月30日)

独立行政法人産業技術総合研究所による観測結果が含まれています。

5ページの脚注6)を参照。

地震の種類別(図5参照)に計数を開始した2002年6月1日からのデータを掲載。

1ページの脚注2)を参照。分解能の高い気象モデルによる補正を実施。

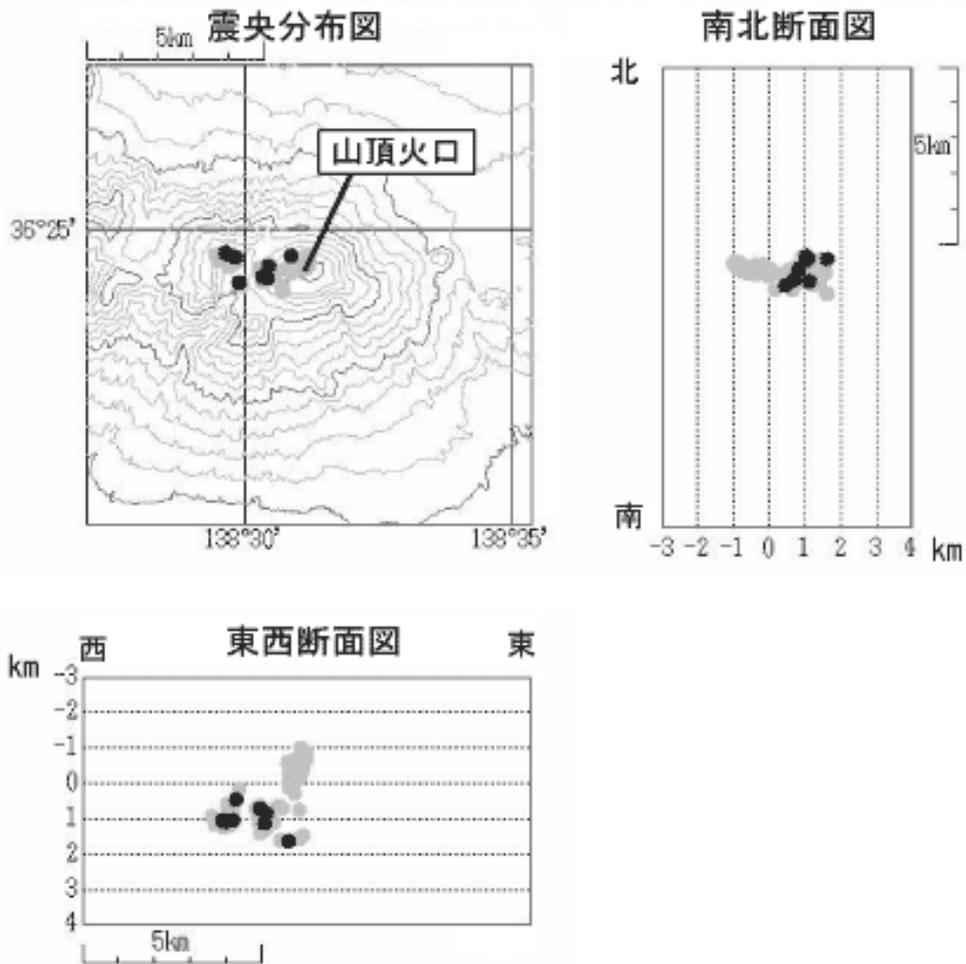


図4 浅間山 震源分布図(2008年7月1日~2009年6月30日)
 : 2008年7月1日~2009年5月31日
 : 2009年6月1日~2009年6月30日

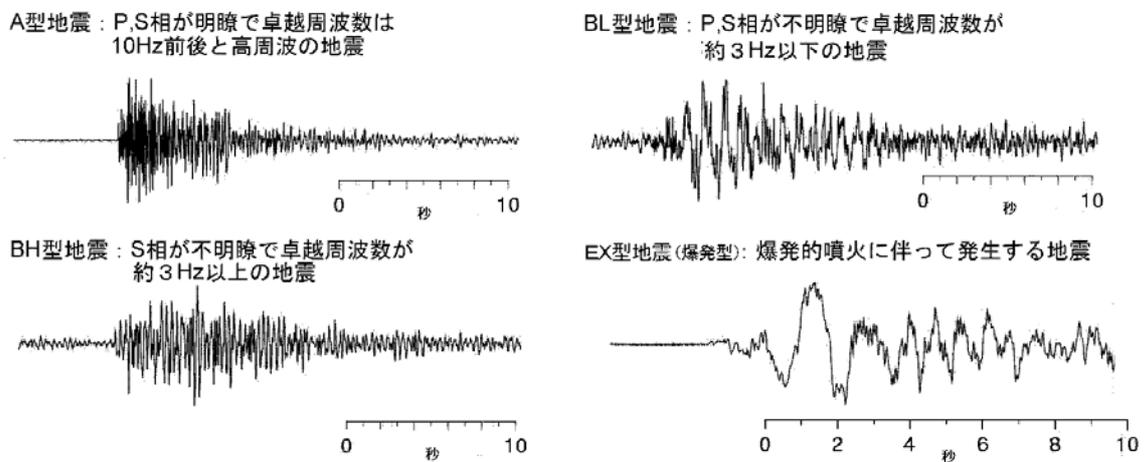


図5 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

表1 浅間山 2009年6月の火山活動状況

6月	噴火回数	火山性地震の回数 4)						微動回数	噴煙の状況 5)		火映強度 6)	備 考
		A型	BH型	BL型	Ex型	その他	地震合計		日最高(m)	噴煙量		
1日	0	1	4	132	0	0	137	0	300	2	-	
2日	0	0	6	137	0	0	143	0	200	1	-	二酸化硫黄放出量:400~1,100ト/日
3日	0	1	4	107	0	0	112	0	100	1	-	
4日	0	0	3	87	0	0	90	0	300	x	-	
5日	0	0	8	145	0	1	154	0	x	x	-	
6日	0	0	3	175	0	0	178	0	x	x	-	
7日	0	1	3	86	0	0	90	0	300	2	-	
8日	0	0	3	79	0	0	82	0	x	x	-	
9日	0	0	10	107	0	0	117	0	200	1	-	
10日	0	0	2	120	0	0	122	0	100	x	-	
11日	0	0	1	89	0	0	90	0	200	1	-	
12日	0	0	4	77	0	0	81	1	300	2	-	二酸化硫黄放出量:700~900ト/日
13日	0	0	1	127	0	0	128	0	x	x	-	
14日	0	0	0	116	0	0	116	0	x	x	x	
15日	0	0	0	75	0	0	75	0	x	x	x	
16日	0	1	1	103	0	0	105	0	x	x	-	
17日	0	0	3	58	0	0	61	0	200	1	-	
18日	0	0	1	99	0	0	100	1	200	1	-	
19日	0	0	2	112	0	0	114	1	300	2	-	
20日	0	1	5	111	0	0	117	0	x	x	x	
21日	0	0	5	128	0	1	134	2	x	x	x	
22日	0	0	4	96	0	0	100	0	x	x	x	
23日	0	1	1	68	0	0	70	0	200	1	-	
24日	0	1	5	102	0	0	108	0	x	x	-	
25日	0	0	7	112	0	0	119	1	100	1	-	
26日	0	0	6	46	0	0	52	1	400	2	-	
27日	0	0	2	87	0	0	89	0	300	1	-	
28日	0	1	7	57	0	0	65	1	200	1	-	
29日	0	0	7	51	0	0	58	1	200	1	-	
30日	0	0	11	45	0	0	56	0	x	x	-	
合計	0	8	119	2,934	0	2	3,063	9				

4) 火山性地震の計数基準はB点で最大振幅0.1μm以上、S - P時間3秒以内です。

火山性地震の種類は図5のとおりです。

5) 噴煙高度と噴煙量は定時観測(09時・15時)の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。

- 1:極めて少量 2:少量 3:中量 4:やや多量 5:多量 6:極めて多量
 7:噴煙量6以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる
 -:噴煙なし x:不明

6) 火映の強度は以下の4段階で観測しています。

- 0:肉眼では確認できず、高感度カメラのみ確認できる程度 1:肉眼でようやく認められる程度
 2:肉眼で明らかに認められる程度 3:肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度
 -:火映なし x:視程不良(終日観測できなかった場合)

)長野県建設部佐久建設事務所の黒斑山設置のカメラを監視に用いることによって、2008年7月より火映の検知能力が向上しています。